

令和3年度第1回 大野市水循環推進協議会 議事概要

日 時：令和4年3月14日(月)
午後1時～午後2時45分
場 所：大野市役所 大会議室

1. 開会

2. 会長・副会長の互選について

○会長に森誠一委員、副会長に角哲也委員を選出

(会長あいさつ)

- ・昨年度、大野市水循環基本計画を作成した。今年度や次年度においては、これを元にブラッシュアップをした形で進展していきたい。
- ・大野市の特徴を生かした形での水循環の健全化が必要である。
- ・皆様方のお立場やご見識をもとに、審議をお願いしたい。

(副会長あいさつ)

- ・新たなスタートということで、3点お話をさせていただく。
- ・1点目は、流域マネジメントが大きなキーワードだということである。表流水と地下水を一体化して、さらに進化させ、市内を流れている川も含めて、大野盆地や山を含めた流域スケールを捉え、今までやってきたことをさらに進めてもらいたい。
- ・2点目は、地球温暖化により地球環境が大きく変動することに対して、どう対応するかである。この変動にどう応えていくのかが大きなテーマである。
- ・3点目は、エネルギー問題である。大野市は、水源地域、電源を担う自治体である。地域の持っているポテンシャルを正しく評価して、環境を維持することと、適正に利用することで、地域の発展につなげていける。

3. 議事事項

(確認事項)

1) 協議会の設立経緯と目的等について

○資料に基づき、事務局が説明

(報告事項)

2) 令和3年度及び今後の取り組みについて

○資料に基づき、事務局、奥越土木事務所及び九頭竜川ダム統合管理事務所が報告

【主な質疑・意見】

- ・雨水の有効利用、貯留浸透の推進について、令和4年度に公民館で設置ということだが、設置するにはどれくらい費用がかかるのか。また、助成金はあるのか。
 - (事務局) 1万円から10万円するものまで様々ある。
 - (事務局) 補助については、来年度に公民館へ設置し、活用策をPRし、ご意見を聞きながら進めたい。

- ・ 渇水対応について、今年度は川が干上がり、魚がたくさん死んでしまった。降水量が一番の原因だと言われるが、河川の管理にも問題があったように思う。要因について結論づけられたものはないか。
→（事務局）今回の主な原因は、9月下旬からの降水量が非常に少なかったことが大きく影響していると考えている。
- ・ 市街地の方は、農業水利権の大切さの認識が薄いと感じる。また、市の周知も足りないのではないか。
- ・ 写真や地図など様々な資料のデジタルアーカイブ化について、継続的に実施と記載がある。デジタルアーカイブ化は必要なことだが、このデータ化したものをどう市民に提供していくかを併せて考えて欲しい。また、デジタル化だけでなく、紙での資料提供についても必要である。
- ・ 水源地域ビジョン推進委員会はどこが行っているのか。
→（九頭竜川ダム統管理事務所）国土交通省である。管理している九頭竜ダムと真名川ダムを中心に、そのダムを生かした水源地域の活性化に取り組むという目的で実施している。地域の行政機関や団体の方に参加いただき、各種施策を行っている。この協議会と重複する部分や共通する部分があるので、この協議会と連携して取り組み、それ以外の部分は今まで通り行っていきたい。
- ・ 渇水時に春日公園観測井の地下水位が、昭和51年の観測以来最低まで下がったという点について、秋口の降水量が極めて少なかったことは、重要な要因になっているが、この下がり方のグラフを見ると、通常、春日公園観測井の地下水位は少しでも雨が降ると細かい応答はしているが、それすら見えない。低下が急激であったことを鑑みると、もう少し専門的な見地からこの点について要因を明らかにし、次に備えることが必要である。

4. 話題提供

○「今後の国の取り組みについて」

国土技術政策総合研究所 竹下オブザーバーから資料に基づき説明

○「流域水循環計画の動向と地下水ガバナンス」

大阪府立大学 遠藤オブザーバーから資料に基づき説明

【主な質疑・意見】

- ・ 今世紀は水の世紀などとも言われており、大野市の水を使った形での地域づくりがキーワードになってくる。

閉会